

4 教育拠点

くまもと県北教育拠点

1. 活動概要

くまもと県北教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、2021年3月、玉名地域保健医療センターと合併し、新たに「くまもと県北病院 くまもと県北教育拠点」として移転し、2022年3月現在、指導医4名、総合診療専門医研修の専攻医2名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供を継続しています。

2021年卒後臨床研修プログラム研修医(基幹型1年次:4名、2年次:3名、協力型:計3名)特別臨床実習(クリニカル・クラークシップ)の「総合診療科」の受け入れも積極的に行っております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療に取り組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行っています。7年経過した現在までに、診療面については救急車不応需率4%を下回り、救急車受け入れ台数も2800台/年まで増加し(いずれも県北地域最高の成績)、入院患者数も右肩上がりの業績を達成しております。その結果、2022年度の基幹型研修医は定員の8名を大きく上回る応募を受け、フルマッチも達成しました。

新型コロナウイルス感染(COVID-19)についても、田宮医師が対策委員長として指揮し、総合診療科も院内の感染対策チーム、有明保健所、郡市医師会および近隣の感染症指定病院と連携をとり、COVID-19のトリアージ業務、外来・入院診療ローテーションに感染チーム医師・呼吸器内科医師とともに参画しています。

これら診療、教育、COVID-19対策における貢献が認められ、2021年10月、田宮医師は病院長に任命されました。今後、田宮新体制の下、くまもと県北病院及び当拠点は、地域医療の発展の為、行政並びに玉名郡市医師会とも協力し、更に発展すべく、尽力する次第です。

くまもと県北病院が
テレビで紹介
されました

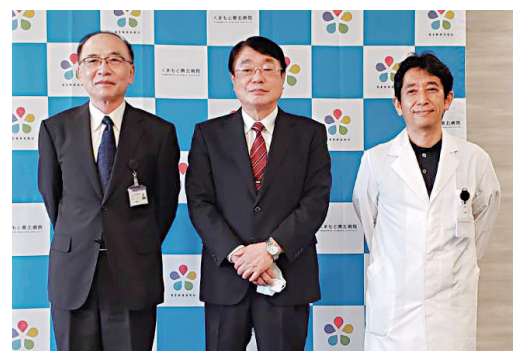


「KKT医療ナビDr. テレヒたん」にて当院の情報が放送されました。



2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	11, 14, 18, 21, 25, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
5	11	玉名在宅ネットワーク会議
6	1, 4, 8, 11, 15, 18, 22, 25, 29	郡市医師会新型コロナウイルス会議
7	9	玉名在宅ネットワーク会議
	2, 6, 8, 9, 13, 16, 20, 23, 27	郡市医師会新型コロナウイルス会議
8	12	玉名在宅ネットワーク会議
	3, 6, 10, 13, 17, 20, 24, 27, 31	郡市医師会新型コロナウイルス会議
9	10	玉名在宅ネットワーク会議
	25	有明地区研修医合同カンファレンス
10	3, 7, 10, 14, 17, 21, 24, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	1	田宮医師 病院長就任
11	8	玉名在宅ネットワーク会議
	1, 5, 12, 19, 26	郡市医師会新型コロナウイルス会議
12	12	玉名在宅ネットワーク会議
	2, 9, 16, 30	郡市医師会新型コロナウイルス会議
1	7, 14, 21, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	14	玉名在宅ネットワーク会議
2	4, 11, 18, 21, 25, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	1, 4, 8, 22, 25	郡市医師会新型コロナウイルス会議
3	11	玉名在宅ネットワーク会議
	14	くまもと県北病院CPC
	16	くまもと県北病院 卒後臨床研修プログラム管理委員会
	18, 25	初期臨床研修 修了式
4	1, 4, 8, 11, 15, 18, 22, 25, 29	郡市医師会新型コロナウイルス会議



3. 活動報告

1 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1チーム3週間の特別臨床実習(総合診療科 クリニカル・クラークシップ)をくまもと県北教育拠点で受け入れています。

本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエストを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとし、学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としております。

コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、時に訪問看護実習が中止されたり、実習そのものが中断されることがあり、院外実習のカリキュラムが十分に遂行できない状況がありました。そんな逆境の中でも訪れた学生は積極的に実習に参加し、コロナ禍でこそ経験できた実習を含め、最低限の成果は得られたものと考えます。

2022年度以降、依然としてCOVID-19診療を行いつつ、診療を通じた教育を更に発展させ実行する為には、科学に基づいた予防策を十分に実施し、指導医、専攻医、研修医、医学生の「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。今後の引き続き多くの医学生が満足できる地域での医学教育の環境、質の向上に努めたいと思います。

ゆっくりだけど、確実に前進

くまもと県北教育拠点における週間スケジュール

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー	プレゼン研修	
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修			皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー	プレゼン研修	
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修		TMEC	皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

- プライマリケアレクチャー：
熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
- モーニングレクチャー：
臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
- リエゾンカンファ：
総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、艦長調整を多職種で検討するカンファレンス
- TMEC：
クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会



コロナウイルス拡散増幅検査(LAMP法)の風景

◆ 初期臨床研修(総合診療科研修)

2021年度は公立玉名中央病院の基幹型研修プログラムに3名の研修医がマッチし、基幹型2年次3名と熊本大学医学部附属病院のプログラムの協力医療施設として1名、国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として2名、計9名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れました。くまもと県北教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつ、十分な予防策を取った上、可能な限りの実習を実践しました。

結果、2022年度の基幹型卒後臨床研修医は定員8名を大幅に上回る応募を受け、フルマッチを達成しました。

◆ モーニングレクチャー

モーニングレクチャーとは…

*各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。写真は、眼科医による眼底鏡の使い方指導の風景です。

*指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。



◆ 講演会・セミナー

新型コロナウイルス感染の蔓延で講演会・セミナーの中止が相次ぎ、研修医の発表の機会が制限されました。その中で「有明地区研修医合同カンファレンス」「九州地域医療教育研究会」「日本プライマリ・ケア連合学会九州地方会」はWEB開催となり、初期研修1年次の嶋永先生と2年次の田添先生が症例発表を行いました。

◆ 総合診療専門医(専攻医)研修

くまもと県北教育拠点およびくまもと県北病院では、熊本大学病院 総合診療専門医研修プログラムの「総合診療II」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2021年度は2名の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生の教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築(働き方改革)と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています。

II 診療

くまもと県北病院で、総合診療科での外来および入院診療を行っています。また、他診療科からの相談（院内コンサルテーション）や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、くまもと県北教育拠点に常駐する指導医4名（内科専門医・指導医、プライマリケア認定医・指導医、病院総合診療認定医・指導医、リウマチ専門医）、スタッフ医師（総合診療専門医、家庭医療専門医、血液内科専門医）の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

くまもと県北病院 総合診療科外来担当医表

月	火	水	木	金
小山	小山	田宮	松井	小山
草野	久保崎	草野	小山	久保崎
松岡	松岡	下地	久保崎	下地
佐藤（午後）				佐藤（午後）

III 年間診療報告

玉名拠点開設から7年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、平日の救急外来を担っています。コロナ禍で受診控えで受診患者数が減少する中でも、入院患者数は徐々に増加傾向にあります。

また、救急診療では受入件数も一時減少しましたが、徐々に増加傾向に転じており、不応需率も依然として低い値を推移しています。



2021年度 研修医 全9名

くまもと県北病院基幹型：6名（1年次：3名、2年次：3名）

熊大病院：1名（1年次）

熊本医療センター：2名（2年次）

天草教育拠点

1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2021年度は2名の常駐寄附講座教員で運営しました。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。教育に関しては、2021年度はクリニカルクラークシップとして、10名以上の学生受け入れを行いました。また、2人の院外の初期研修医の受け入れも行い、昨年よりもさらに前進しました。そのような学生や研修医、また、昨年同様、地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを行ってきました。

今後も、天草地域医療センター総合診療科に対して特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医(特に総合内科分野)としての役割だと思えます。今後も地域医療機関や院内のニーズも考慮しつつ、教育拠点としてできること、現状のマンパワーでできることを考えていく必要があると思えます。

2. 年間活動実績

- 毎月2回 WEB症例検討カンファレンス
- 毎月2回 合同WEBカンファレンス
- クリクラ受け入れ 10名程度

3. 活動報告

◆ 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1チーム3週間の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1チーム1~2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。

また、総合診療科としてのクリニカルクラークシップ受け入れも開始し、3週間の期間で7名に来てもらいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

総合診療科としてのクリニカルクラークシップとして来た学生は、担当患者から患者中心性について興味を持ち、実習終了に際し科内で発表してもらいました。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医からは総合診療科での学びは大変好評で、ほぼ毎月ローテーションする研修医がいる状態でした。

指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

ローテーションの最初に学習目標を設定した上で、2週間毎に個別面談を行い、具体的な診療内容の振り返りと、より高いレベルに到達するためにはどうすればよいのかフィードバックしました。ローテーションの最後には終了まとめを行い、当科での研修の総括を行います。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医はこの1年は不在でした。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した後期研修医指導を行える体制を作っていきたいと考えています。

Ⅱ 診療

● 外来担当

中村：月・木

松本：水・金

火：空田、鶴田（隔週）、谷口（隔週）

● 救急担当

適宜（その日外来担当でない医師）

Ⅲ 年間診療報告

昨年に引き続き地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。また、COVID-19感染対策についても、発熱外来などで対応しています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患（悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細胞癌、管内胆管癌、尿管癌、肺癌反回神経麻痺など、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など）、感染症（EBV 伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、椎体炎・椎間板炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など）、膠原病関連（関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など）、運動器疾患（圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など）、ほかにも悪性貧血、ネフローゼ症候群、肝硬変、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士、認定看護師等と連携し、摂食嚥下チームとして、嚥下造影検査の検査数増加、嚥下機能についてアドバイザーとして地域ケア会議への参加なども行っています。

Ⅳ セミナー

部長代理の松本がリーダーとなり、「熊大総合診療セミナー」を主催していました。

2021年度は年間を通して計4回の開催となり、会を重ねるごとに参加者が増えており、若手からの総合診療を学ぶことのニーズを実感しております。

河浦教育拠点

1. 活動概要

河浦教育拠点は2021年4月に設置されました。玉名教育拠点、天草教育拠点に引き続き3番目の教育拠点ですが、前の2つが二次医療機関での病院総合医タイプであるのに対し、河浦教育拠点は過疎地域の小規模病院におけるプライマリケアタイプの教育拠点です。少子高齢化で様々な職種の人的資源が少ない中、総合診療科医として効率よく地域づくりに貢献できるよう、日々奮闘しています。また、地域医療を行っていく中で、実践的な教育を行っていく予定です。4月に常勤の寄附講座教員1名でスタートしています。10月からはレジデント1名が派遣となり、日々、研修に励んでいます。

2. 年間活動実績

4月 1日 河浦拠点開設式
8月 6日 住民講座
8月 17日 自立支援型地域ケア会議従事者研修会
12月 2日 在宅医療サポートセンター会議
12月 8日 しきちの会
クリクラ受け入れ1名
初期研修医地域医療研修3名

3. 活動報告

◆ 教育活動

◆ 学生

熊本大学の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)「地域医療」枠では1ターム3週間の実習があり、今年から、河浦拠点も研修場所になりました。コロナ禍のため、なかなか臨床現場での実習ができない状況もあり、今年度は1名の実習で終わりました。実習中は、へき地での地域医療の現実を体験してもらい、学生なりに考えてもらいました。終了日には学生発表をしました

◆ 初期研修医地域医療研修

赤十字熊本病院より1か月ずつ3名の研修医が派遣されました。2次医療機関とは違う、限られた資源の中での外来診療、入院診療、そして在宅診療を経験してもらい、それぞれにフィールドの違いによる仕事の視野の違いを感じてもらいました。また、この地域だからこそその歴史遺産見学や陶器見学、釣りなども体験してもらいました。

◆ 後期研修

10月から1名派遣されました。単に患者数を増やすことや収益を上げることを目標とせず、研修医の成長過程、臨床能力に適した診療負担となるよう診療を調整しつつ、徐々に患者数を増やしてきています。日常業務の多忙さのため予定通りできないこともあります。毎日昼に担当患者についてのカンファレンスを行い、プレゼンテーションを行っています。

また、当院には自治医出身の若手医師もいるため、一緒に小勉強会を不定期で行い、高血圧、糖尿病といったプライマリケアには欠かせない慢性疾患の勉強も行っています。

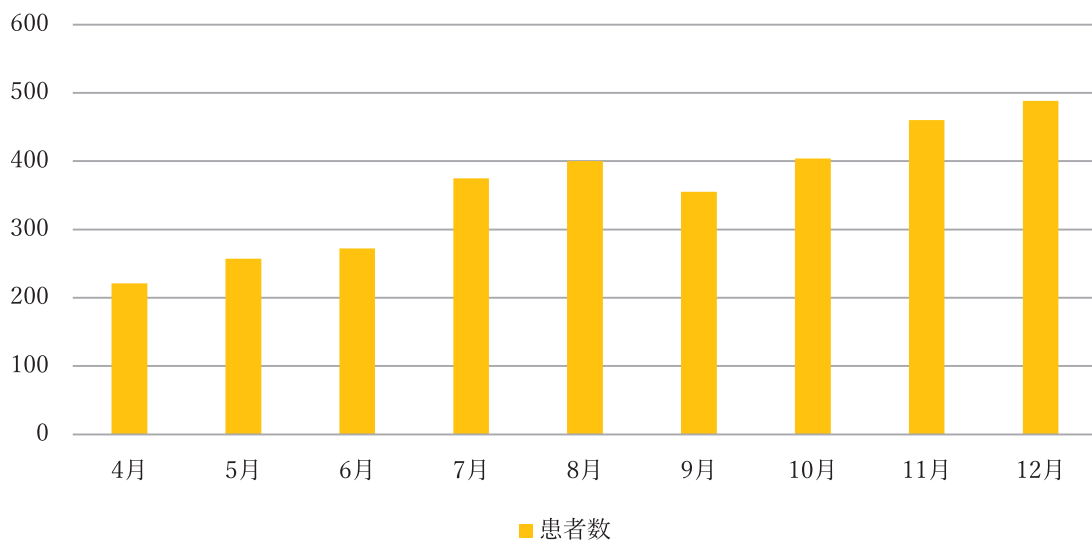
II 診療

月・水・金 鶴田（初診+再診）
火・水・木・金 本田（主に初診）
訪問診療はチームで分担 火・水・金

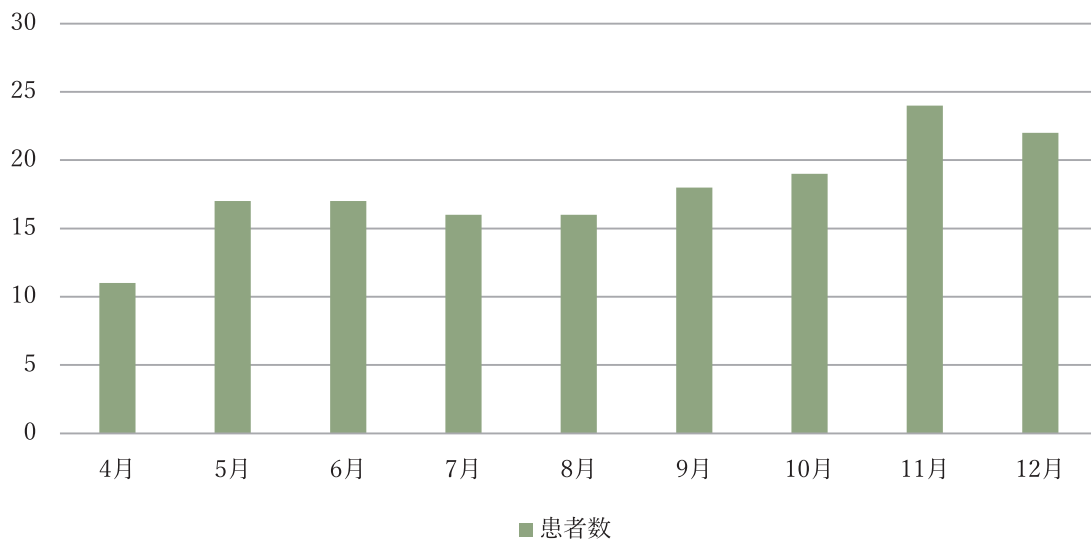
III 年間診療報告

河浦病院はもともと外科、内科、整形外科で形成されていましたが、へき地の小規模病院であるため、診療科による患者層の違いはあまりありません。総合診療科が活躍するにはベストなフィールドのひとつです。2021年4月より総合診療科の診療が開始し、さらに10月からはレジデントが一名加わり、診療患者数は徐々に伸びてきています。今後、診療を続ける中で総合診療科の認知度上昇、地域への貢献度の上昇ができると思います。

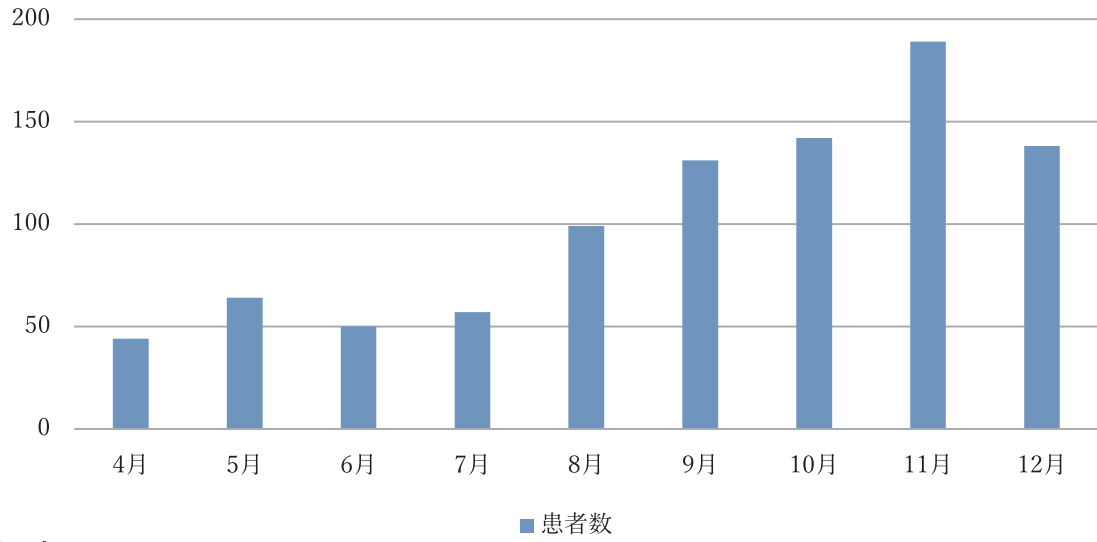
外来患者数



訪問診療登録数



1日あたり一般病棟入院患者



Ⅳ セミナー



住民講座の様子



しきちの会の様子



在宅医療サポートセンター会議の様子



研修医発表会の様子



在宅医療チーム